

眼内腫瘍アトラス

後藤 浩 著

著者の後藤浩先生は、眼腫瘍、ぶどう膜疾患がご専門であり、ぶどう膜悪性黒色腫をはじめとする眼内腫瘍をわが国で最も診ている眼科医である。本書は、虹彩腫瘍、毛様体腫瘍、脈絡膜腫瘍、網膜腫瘍、視神経乳頭腫瘍、眼内リンパ腫、白血病の各章からなり、多数のきれいかつ貴重なカラー写真がこれでもかというほど掲載されている。通常、眼内腫瘍といえば、網膜芽細胞腫、脈絡膜悪性黒色腫、転移性脈絡膜腫瘍、悪性リンパ腫を思い浮かべることと思う。しかし本書は、それらはもちろんのこと、虹彩の嚢胞・母斑、虹彩・毛様体の黒色細胞腫（メラノサイトーマ）・悪性黒色腫、脈絡膜の血管腫・骨腫・母斑、網膜の血管腫・星状膠細胞腫・過誤腫・網膜色素上皮過形成（肥大）、視神経乳頭の黒色細胞腫（メラノサイトーマ）・毛細血管腫などの症例写真も多数掲載されており驚愕する。

眼内腫瘍は患者数が少ないため、遭遇したときに診断や対処に困ることが多い。本書は、同じ疾患でもバリエーションの異なる写真が多数掲載されているため、各疾患の特徴がよくわかり、学習効果が高い。見たことのない臨床像も多く、“なぜこんなことが眼内で起こるのか？”と自然界の不思議に思いをはせるこ

ともしばしばである。

本書は、臨床写真のみならず、超音波断層検査、蛍光眼底造影検査、光干渉断層計（OCT）、CT・MRI、症例によっては、視野検査（！）などの検査所見も豊富に収載しており大変参考になる。後藤先生は病理学にも造詣が深く、病理組織写真も掲載されている点も素晴らしい。本文も、臨床像・画像所見・治療という項目で簡潔に記載されているため読みやすいのだが、何といっても本書は画像が多いので、写真集のように一気に見入ってしまう。また、本文とは別に“ひとり言”というコラムがあり、こちらは著者の深い含蓄と愛情溢れる人間性に満ちており、思わず読み入ってしまう。

後藤先生による前作、『眼瞼・結膜腫瘍アトラス』とともに、眼科医ならば手元に置くべき名著である。本書は世界に類を見ない貴重な写真のオンパレードであり、ぜひ、英文での出版をお願いしたい。

埼玉医大総合医療センター教授・眼科学
小幡博人

A4・頁226 2019年10月
定価：本体12,000円＋税
[ISBN978-4-260-03892-8] 医学書院刊